



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

真夏のご馳走

美容歯科 科長 真鍋 厚史

この記事が掲載される頃には少々涼しくなっていることを期待しております。

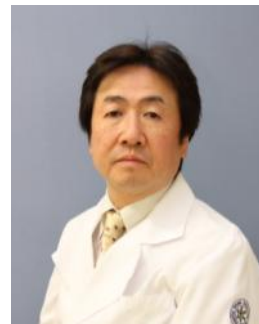
毎年、夏場は水分と休息を十分にとることが夏ばてや熱中症の予防になると子供の頃から教えられてきました。さらに土用の丑の日には鰻を食するという日本古来の習わしもあります。この理由も暑い時期に栄養をつけるためと言われていました。しかし鰻の旬は冬眠に備えて身に養分を貯える晩秋から初冬にかけての時期で、秋から春に比べても夏のは味がおちます。このように日本の食文化は味、色、旬、以外にも風習が大きく関与することに大変興味深いものがあります。本当に旨いものとは、と思っておりますと真っ先に思い浮かぶのがまず、マグロの刺身、ふぐの刺身等生ものを連想してしまいます。確かに新鮮な生ものというおいしいイメージがあります。

先日、歯科学会の公開講座で非常に興味深いお話を聴講しました。演題内容はユッケ食中毒、レバー刺販売禁止を通じて良質な食品素材や栄養素とは何かを考えさせられる講演でした。その中で健康な食物を健康に食するといいながら、今の流行は逆の方向に流れている。たとえばおいしいと柔らかいという言葉と同義語で使い、さらには柔らかいという言葉の方が上質な褒め言葉として使用されるようになっている。霜降りの柔らかい牛肉、柔らかいユッケ、柔らかい大トロなど。すなわち脂肪の多い部分や絞めてからだぶ時間たったマグロは柔らかくアミノ酸も豊富に出てきてよりいっそうおいしくなります。しかしユッケ

や生レバーは、生で食べるということはすなわち新鮮でなければならないという考えがありますが、これも実はだぶ時間がたってから食べられているといった内容でした。この講演を聴いておどろきとおそれを感じました。それではお寿司のサーモンやルイベは本当に生で食することができるのか？記憶によれば幼い頃、鮭の身は生で食べるものではないと教わってきました。何とも不思議な感覚になります。答えは現在では鮭を養殖するとき大量の抗生剤をえさと一緒に与えることでいわゆる寄生虫が死ぬと言うことらしいです。そこまでしても生で食べることにこだわり、これは美味しいと表現するのかと感じました。

日本食文化では新鮮な生ものを食するという長い歴史がありますがそれ以外に網焼き、煮る、蒸かす等日本伝統の調理法がたくさんあります。またおいしく見せる器や食細工、彩りなどすばらしい食芸術文化といっても過言ではないほど旨みを引き出す方法があります。ですから何も今更、生にこだわらなくてもいいのではないかと思いますこの頃です。特にこの時期は、何はともあれ食を通じて健康に楽しく食卓で頂くためには健康な歯肉、歯、かみ合わせがあつてこそその旨みです。

この機会に歯科検診でも受診してみたいでしょうか。



美容歯科 紹介

「美容歯科」ではどのように歯を治療するのか、と質問されることがあります。保険外で歯を綺麗にする診療科と思われるかも知れません。「美容歯科」は、1977年(昭和52年)創設の第二歯科保存学(当時)をルーツにしています。2001年(平成13年)に名称を「保存修復学」、2009年(平成21年)には「歯科保存学」と改称し、2012年(平成24年)には「美容歯科」に改称しました。

保存修復あるいは歯科保存とは、歯を抜かずに咬めるように治す治療です。むし歯を治す方法にも新しい考え方が導入されています。できるだけ歯を削らない治療(最小限の侵襲:ミニマル・インターベンション:MI)はカリオロジーと接着技術の進歩から可能になりました。カリオロジー(う蝕学)とは、むし歯発生の原因、進行、抑制、メンテナンスなどを包括する学問です。進行が停止しているう蝕には経過観察、初期う蝕には再石灰化療法も選択できます。当科では1980年代からプラスチック材料を歯へ強固に接着させる研究とその実践を行っています。天然エナメル質と見間違えるような歯の色に合った審美的な修復も可能になりました。定期的な診察・メンテナンスとMIにより、歯は長期間にわたって使うことができます。

歯科病院訪問

去る7月18日に中国広東省の佛山市からアジア歯科審美学会の次期会長Dr.Wangご一行20名の方が当病院を見学されました。現アジア歯科審美学会会長で昭和大学名誉教授の久光久先生が各フロアを案内し、最後に宮崎学部長、岡野病院長を交えて意見交換の場をもちました。短い時間の見学でしたが日本の歯科医療現場を見学された先生方からは活発な

7月20日の午後、台北医学大学の口腔医学院(歯学部)の蔡恒惠副院長(小児歯科)をはじめ11人の見学団が歯科病院を訪れました。歯科医師は蔡先生ともう一人、あとは歯科衛生士さんでした。口腔衛生学部門の向井教授と私で、二班に分けて院内をご案内しました。最初のご挨拶で私の名前・佐野晴男を台湾語の発音で、ゾーイェチンナンですと自己紹介したとこ

1990年代からは、歯をもとの色と形に治し咬めるようするだけではなく、白く美しい歯にする漂白の研究と処置が開始されました。歯の漂白(ホワイトニング)法は、白く若々しく清潔で健康に見える歯を、審美的な歯科医療として提供できます。当科では、歯の状態と生活状況に応じ最も適切な方法で歯を白くするため、カウンセリング・歯の色の診査から適切な処置法の選択、ホワイトニング実施、ホワイトニング後のメンテナンスまでを包括した処置を行っています。歯科医師と歯科衛生士のチーム医療も、当科におけるホワイトニング処置の特徴です。

経験と実績に裏付けられた接着技法とホワイトニング処置以外にも、最新の材料、最新の方法を応用した審美的な歯冠修復、最適な漂白(ホワイトニング)、専門家による歯のクリーニング(PMTC)とメンテナンス、歯肉の色素沈着の除去、歯のマニキュア、口唇のエステなどが美容歯科の診療領域です。これらには保険外処置も含まれますが、詳細はお問い合わせ下さい。「美容歯科」は、歯の形と色を最良の状態に維持することを目的とし、多くのかたが満足できる歯科医療、国民が求める21世紀の新しい歯科医療を目指しています。

美容歯科 講師 東光 照夫

質問が多くあり中国歯科医療の今後の発展が期待されました。

(美容歯科 科長・真鍋 厚史)



る、皆さんの空気が一気に和みました。

(連携歯科 科長 佐野 晴男)



前列左から日山衛生士長、蔡先生、佐野、向井教授、柴田衛生士、後列は見学団の皆さん

歯ぎしりとは

歯ぎしりという、睡眠中にキリキリという不快な音を伴って歯を擦り合わせる習癖を思い浮かべられると思います。あまり知られていませんが音を生じない“咬みしめ”と呼ばれる習癖も歯ぎしりの一つです。音がしないのでわかりにくいのですが、朝起きたときに歯や顎に疲労感や痛みがある場合には、この習癖が疑われます。また、睡眠中に限らず、日中起きているときに無意識に歯を咬みしめる習癖も多くの方に認められます。広い意味ではこれも歯ぎしりと呼ばれます。

歯ぎしりの為害作用

歯ぎしりが続くと顎の筋や関節に痛みが生じたり、口が開きにくくなるといった、いわゆる顎関節症の原因となります。最新の研究により、顎関節症患者の50%以上の方に日中に無意識に歯を合わせる習癖が認められることが明らかにされています。さらに、歯の摩耗や破折の原因となること(写真1)、歯周病の状態を悪化させることも知られており、歯ぎしりが原因で歯を失うことは稀ではありません。また、時間と費用を費やして差し歯やつめ物などの歯科治療を受けて、歯磨きをしっかりと行っても歯ぎしりに対する適切な対応が行われてないと、差し歯が破折したり、つめ物が脱落する可能性が高くなります。



写真1

歯ぎしりへの対処法

治療法については、マウスピースのような形態のプラスチック製の器具を用いて対応しています(ス

プリント療法、写真2)。ただし、スプリントを用いてもある程度歯ぎしりを少なくすることはできますが、歯ぎしりは止まりません。しかし、スプリントにより歯ぎしりの力から歯や歯周組織を護ることができ、歯の摩耗や破折を防止することができます。また、スプリントを使用することにより歯ぎしりの音を低下させることができます。これは、睡眠同伴者の睡眠の質を向上する上で非常に重要です

日中、咀嚼・会話などの機能を行っていない時には上下の歯を合わせてない状態が正常です。しかし、無意識あるいは意識的に歯を咬み合わせている人がいます。強く咬みしめている場合はもちろんですが、弱く歯を合わせているだけでも長時間持続すれば前述した様々な問題の原因となります。これらの習癖があることが確認されたら、その為害作用について十分に説明し習癖をやめるように指導します。日中の起きているときの習癖ですので、習癖の確認・是正は可能です。

最後に、虫歯や歯周病の治療については広く理解が得られるようになり、その結果として国民の口腔健康状態は著しく向上してきました。残念ながら歯ぎしりに対しては十分な理解がえられているとは言えません。高度な歯科治療を受け自己管理ができていても、歯ぎしりを見逃すと、口腔の健康は損なわれます。健康な歯を維持するためには歯ぎしりについてよく理解し適切に対応する必要があります。



写真2

歯内治療科 紹介

1. 歯内治療とは？

歯はその表面をエナメル質という硬い層で覆われています。う蝕はその硬い層を溶かして内部に進行します。内部には歯を栄養する血管とともに歯に感覚を与える神経が来ています。その部分を歯髄といいます。う蝕がこの歯髄に近づくとそれだけで痛みを生じます。熱いものや冷たいものに歯が触れるとさらに痛みが強まります。これを治すには、まずはう蝕病変をとって、穴の空いた部分に詰め物をします。これで治まることもありますが、すでに歯髄がう蝕の病変により細菌に感染し変質してしまっているときには別の治療になります。その治療を歯内治療と呼びます。

そこでは、まずこの感染した歯髄を除去します。歯髄が少しでも生きている場合には注射麻酔をしてこの治療をします。歯は口の中で見えている部分よりも骨に埋まっている部分の方が長く、この部分を歯の根、歯根といいます。神経や血管は顎からこの歯根の先端を通じて歯に入り、歯髄を形成します。歯髄の含まれる部分を根管と呼びます。歯髄の治療では歯根の先端までの歯髄をきれいにしますが、先端を介して顎の方にも細菌感染を起こしている可能性があります。これを無菌化するために一定の期間をおきながら数回の外来での治療が必要になります。これが当科での診療期間が長くなる理由の一つです。また歯の中の狭い場所に小さな器具を使つての治療になりますから、治療目的によっては顕微鏡を併用することもあります。

2. ラバーダム防湿とは？

歯内治療を行うには無菌操作が必須です。治療中はその歯だけを露出して他の部位を覆います。また治療に用いる薬液には刺激性のものがあつたりますので、これが口のなかに漏れないためにも必要です。この操作をラバーダム防湿といいます。

編集後記

ロンドンオリンピックでは熱戦が行われましたね。吉田選手と伊調選手の女子レスリング3連覇、なでしこジャパンの価値ある女子サッカー銀メダル、北島選手の第二泳者として第一位のタイムで勝ちとつた400mメドレーレー銀メダルなどなど。。それにしても熱戦はとうに終わったのにこの暑さ。秋は何処に・・・ (K.T)

なお、ラバーにアレルギーのある方がいますので、その場合にはノンラテックス(ラバーでない)のシートを用います。

3. 歯の外傷(歯を強く打ったり割れた場合)に対応します

最近、お子さんだけでなくスポーツで歯を打撲したり、転んで歯をぶつける方が増えています。以下のような所見が認められたら、速やかに当院を含めて近くの歯科医院を受診して下さい。もちろん、頭をぶつけて頭痛や吐き気など気分が悪い場合は、まずは大きな病院の救急外来の診察を受けてください。

- ・歯の一部が欠けた
- ・歯の位置が変わっている
- ・歯がグラグラと動いている
- ・歯の神経が出ている
- ・歯が完全に抜け落ちてしまった
- ・口の中から出血がある
- ・歯が変色している
- ・痛みが強くなる

早い対応で歯を抜かなくて済む場合があります。また歯の根が折れた場合であってもその程度次第で歯を保存することができます。ただし、治療の甲斐無く、歯を抜かなくてはならないこともあることをご承知おき下さい。

当科では必要に応じて昭和大学病院とも連携して診療を行っています。

4. 当科での診療の特徴は？

歯内治療のエキスパートによる診療を行っています。本院は教育病院ですから、将来の歯内治療の専門医を目指す若い先生方もエキスパートの指導のもとで、診療に参加します。

極度の緊張から歯科治療が困難な方に対しては歯科麻酔科と連携し鎮静法を用いて治療を行っています。何か御不明な点がございましたら、当科の担当医にお問い合わせください。



(歯内治療科
講師 増田 宣子)

顕微鏡を用いた歯内治療